

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和7年2月15日／毎月1回15日発行

Vol. 708

都医NEWS

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部 77円

東京都医師会 定例記者会見 01

底流 ほか 02

みどりの広場 ほか 03

ふれあいポスト 04

感染症豆知識 ほか 05

地区医師会長からの一言 06



学士会館

東京都医師会 定例記者会見

1月14日(火)

2025年
医療と介護が抱える課題



土谷副会長

「医療・介護の世界では2025年を起点として、47都道府県ごとに抱える課題など、それぞれの未来が大きく変わっていくだろうと思っ

また、後期高齢者の多くは基礎疾患を有し、感染症の重症化リスクも大きい。転倒や骨折、軽い心不全や脳梗塞などで救急搬送の激増も想定されるが、対応する二次救急病院の多くはすでに経営危機の問題に直面している。

また、後期高齢者の多くは基礎疾患を有し、感染症の重症化リスクも大きい。転倒や骨折、軽い心不全や脳梗塞などで救急搬送の激増も想定されるが、対応する二次救急病院の多くはすでに経営危機の問題に直面している。

また2040年に向けて、新たな地域医療構想の基本的な考え方等について概説するとともに、東京の医療における将来の需要と供給に係るアンバランスの例を挙げて指摘し、『2025年問題』と言われているが、これらも（影響は）強くなる」と締めくくった。

また2040年に向けて、新たな地域医療構想の基本的な考え方等について概説するとともに、東京の医療における将来の需要と供給に係るアンバランスの例を挙げて指摘し、『2025年問題』と言われているが、これらも（影響は）強くなる」と締めくくった。



荘司理事

また、高齢者施設からの救急搬送は増加傾向にあり、都内で検案対象となる約7%が高齢者施設からの搬送である。これは本来望んだ場所ですら平穏が迎えられる状態にあってはならない。検案となってしまうという現状が含まれている」と指摘し、救急車の適時適正利用とACPや家族の死への理解を呼びかけるとともに、救急車の利用に選定療養費を設定した事例を挙げて、必要な人にきちんと救急支援が行き届くよう求めた。

前期高齢者と後期高齢者を比較すると、2020年の医療費では国庫負担1人あたり約4倍、介護費は約10倍とも言われている。健康寿命の延伸、フレイルや認知症予防が推進されているものの、85歳以上では半数が認知症を抱えるとも言われている。尾崎会長は「これから入院、在宅外来、介護すべてが変わってくる」と述べた。

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。



新井理事

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。

東京都の地域医療構想について、大きな軸として、病床の機能分化・数の調整と医療連携の推進を挙げて説明した。年度2回開催される調整会議の議事における、今回のキーワードは「地区診断」であるとし、「地域ごとに医療資源が異なることから、都道府県ごとに留まらず、地域ごとに今後の展開が異なることを自分たちで自覚して、将来の見通しに対して対策を考える必要がある」と提言した。



新井理事

底流

已年に精神科医療は
更なる脱皮ができるか。

「新たな地域医療構想等に関する検討会」に精神科医療関係者が加わった。これを機に一般科と精神科医療の格差是正が望まれる。しかし他にも課題が。

少し前から「医療観察法」における指定入院機関の指導監査業務を担当している。医療観察法指定入院とは殺人、放火、強盗、強姦、傷害等の重大な他害行為を犯した者が、心神喪失又は心神耗弱のために不起訴・無罪等となった際に裁判所が指定入院医療機関への入院が必要と判断した者を入院させる制度である。指定入院医療機関は全国35カ所、総病床数は約850床。1病棟の定員は最大33床、10床以下の病棟が5カ所あり、一般的な精神科病棟と比べかなり少ない。原則個室で集団生活は行わない。精神療法室、作業療法室、食堂、デイルーム等が整備されている。患者数に対する職員配置は常勤医師8対1、日中の常勤看護師1・5対1、常勤臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師等の専門職が重層的かつ潤沢に配置されている。例えば夜勤の看護士数は定員33床の病棟で6人、定員6床の病棟で3人と規定されており人員配置の手厚さがわかる。

医療は①ノーマライゼーションに基づく早期社会復帰②多職種協働による医療③人権に配慮し透明性の高い診療等を基本理念としてガイドラインに準拠して提供されている。監査業務で指定入院機関を訪問すると病棟は新しいし大規模改修で概ね新しい。病棟は広く明るく開放的で、重大な犯罪を犯した者が入院しているとは思えないほど静かで穏やかな雰囲気である。保護室も窓や造作物に工夫が施され閉塞感が少ない。目に付くのは患者に寄り添い、見守るスタッフの多さである。見慣れた精神科閉鎖病棟の光景とかなりの違いがある。監査診療時に入院の処遇を訊ねると、多くの患者からこれまでの病院の中で一番良いとの答えが返ってくる。

精神障害者に手厚くする目途であれば良いが、またこの領域に「特例」が復活し、差別や壁が生まれは困る。東京都医師会としてもそうならぬようしっかり支援していきたい。

（平川博之）

地区医師会長
連絡協議会報告

令和7年1月17日（金）

◎都医からの伝達事項

（１）風しんの追加的対策（第5期）について

風しん（第5期）に係る抗体検査および定期の予防接種が、本年3月31日をもって終了するので、対象者に対する

（３）令和6年度がん検診受託機関講習会の開催について
1月29日（水）から2月28日（金）までを視聴期間として、オンラインで本講習会の録画配信を行う。多数の先生方に視聴いただきたいので周知をお願いした。

（５）令和6年度東京都在宅療養研修事業「在宅療養推進研修」の開催について
今後、認知症高齢者が急速に増大する状況を踏まえ、地域における認知症対応の多職種連携をテーマに、地域での

（４）動ける医ケア児を支援できる小児科医・一般内科医養成研修会の開催について
近年急激に「動ける医ケア児」が保育園、学校に通うようになってきていることを受け、かかりつけ医・園医・学校医として知っておきたい実践的な対応を学ぶ研修会を、2月16日（日）午後2時から都立小児総合医療センター講堂において開催する。ぜひ参加いただきたぐ、ご案内した。

（６）令和6年度認知症サポート医地域連携促進事業「とうきょうオレンジドクター」活動報告会の開催並びに活動報告の募集について
令和6年度より発足した本事業の活動報告会を、3月22日（土）午後2時からWEBにて開催する。活動報告の応募をお願いするとともに、多数の認知症サポート医等にご参加いただきたい旨お伝えした。

（７）大学ブロック
（８）出席者による意見交換
（１）ワクチン不足への対応について
（練馬区医師会）

（１）中央ブロック
（２）城東ブロック
（３）城西ブロック
（４）城南ブロック
（５）城北ブロック
（６）多摩ブロック
①2024年度 World Diabetes Day（世界糖尿病デー）ライトアップイベントに関する報告について
（調布市医師会）

◎その他

東京都医師会年末懇親会

12月18日（水）

恒例の年末懇親会が、12月18日（水）に都内ホテルにて開催された。平川副会長の開会挨拶の後、主催者として尾崎会長より挨拶があった。

「2024年は元日に発生した能登半島地震に始まり、1月2日の羽田空港地上衝突事故と波乱の幕開けであった。医療・介護においても、地方と異なる事情を抱える東京都には多くの課題があり、みなさんにはこの場を利用して議論していただきたい」と呼びかけた。

続いて松本吉郎日本医師会会長、小池貞子東京都知事、宇田川聡史東京都議会議長、井上信治自由民主党東京都支部連合会会長が順に登壇され、来賓挨拶があった。乾杯は小沼一郎関東甲信越医師会連合会副会長に発声いただいた。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

その後、司会者から来賓紹介があり、引き続き懇談がなされた。結びに連沼副会長より、閉会挨拶があり、名残を惜しみながら盛会裏に閉会となった。

会場の様子



小池都知事と尾崎会長



会場の様子

202
みどりの
広場

なりたい医師像

杏林大学6年 大久保真子



かり伺い、本心を汲み取れる医師になることだ。そうして患者さんとの信頼関係を築けるようになりたい。

今年は暖冬かと思いきや、12月の暮れにもなるとすっかり寒くなってしまった。勉強を終えた大学の帰り道、街路樹に巻きつけられた電飾がキラキラ輝いており目に楽しい。しかしながら外はあまりにも寒い。景色を楽しむのもそこそこ早足に寮を目指す。

国家試験まであと2カ月を切りiPadを眺める日々だが、5カ月前までは実習に動んでいた。4年生の11月からは始まったおおよそ1年半の実習は、長くもあり短くもあった。1年生の頃、KCに身を包む先輩方を見て憧れたものだが、実際に自分が着てみるとさして心踊るものはない。とうとう実習する学年に来たのかと、気持ちが現実に近いついていないでいた。しかしながら、レポートや試問にあたりながら病棟を練り歩いているうちに、1カ月もすると実習生としての自覚を持つことができた。お忙しい中、

我々学生の質問にお答えくださり、またレポートを添削してくださる先生に申し訳なさで感謝の気持ちでいっぱいになった。時に試問で答えに窮し、汗が背中を伝っていったこともある。そのような中で、なりたい医師像が実習以前よりも非常に明確になった。かつては、適切な診断と治療を行い、患者さんのQOLを高められる医師になることが最終目標であった。今はそれに加え、患者さんの話をしっ

かり伺い、本心を汲み取れる医師になることだ。そうして患者さんとの信頼関係を築けるようになりたい。

5年生の終わり、学外の病院で1カ月間ひとつの診療科を見学させていただいた。この時の実習でも、医師がこなさなければならぬ仕事の数々とその責任に圧倒されたが、非常に印象的だったことがある。それは患者さんのその先生に向けて目だった。とても安心した様子だったのだ。先生はどんなに忙しい状況でも、同じ現場で働く人々を気遣い、一人ひとりの患者さんに丁寧に接していた。丁寧なコミュニケーションによって相手が何を求めているのか理解し、また相手に自分

が発したものを理解してもらった。そうして築かれた信頼関係にある患者さんと先生の様子がとても眩しく見えた。

今から約4カ月後、医師国家試験に合格した際には研修医として働く。これまで山ほど現場を見学したが、実際に医師として働いてみると先生のように、

全く違った景色がそこには広がっているだろう。右も左もわからず、心に余裕がなくなることもあるかもしれない。しかし、そのような状態にあったとしても俯瞰的に冷静に自身を見つめ、すべきことをこなしながら周囲との関係を築きたい。かつて出会った先生のように。

六仙公園
縄文の湧水を守る緑

趣味の散歩

六仙公園は、東久留米市の中央に位置する都立公園です。北多摩北部地域の緑の拠点として計画され、南沢湧水群の水源涵養地として平成18年に開園しました。「水の森の創造く湧水の森の創造く湧水場」滑り台などがある「遊具広場」があり、いつでも子どもたちが楽しく走り回っています。健康遊具も充実していて、高齢者が健康増進のために使用しており、子どもから大人まで楽しめる公園となっています。また、公園の一部は縄文時代中期の集落跡である六仙遺跡の上にあり、発掘された遺跡をかたどったモニュメント

園内には水景施設のある「わき水広場」、ボール遊びのできる「多目的運動広場」滑り台などがある「遊具広場」があり、いつでも子どもたちが楽しく走り回っています。健康遊具も充実していて、高齢者が健康増進のために使用しており、子どもから大人まで楽しめる公園となっています。また、公園の一部は縄文時代中期の集落跡である六仙遺跡の上にあり、発掘された遺跡をかたどったモニュメント

■西武池袋線「東久留米駅」から西武バス「中央図書館」下車徒歩15分
常時開園・入場無料

をまもり、緑をあるく」を全体のテーマとしています。

園内には水景施設のある「わき水広場」、ボール遊びのできる「多目的運動広場」滑り台などがある「遊具広場」があり、いつでも子どもたちが楽しく走り回っています。健康遊具も充実していて、高齢者が健康増進のために使用しており、子どもから大人まで楽しめる公園となっています。また、公園の一部は縄文時代中期の集落跡である六仙遺跡の上にあり、発掘された遺跡をかたどったモニュメント

私のクリニックからも近いので、時々訪れています。春は桜、秋は紅葉も見事であり、四季折々の自然を楽しむことができます。とても広く、開放的で気持ちもちりフレッシュできますので、お近くにお越しの際にはぜひ寄ってみてください。

(東久留米市医師会 熊野雄一)

知ってますか?

直美(ちよくび)

「直美」とは、「直接美容医療」の略で、医学部卒業後に2年間の初期臨床研修を修了して、直接美容医療の道へ進むことを指す。2024年時点で年間約200人近くの「直美新人医師」が生まれているとされている。未熟な手技による美容医療トラブルの増加や医師偏在の問題もあり、厚生労働省が今後規制を検討している。

人生を支えている
労働保険の手続きを
全力サポート

大切な労働保険の手続きは
当会へお任せください

東京労働保険医療協会
会長 尾崎 治夫

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 4階 TEL 03-5577-2960

練馬区医師会

永田美也子

故郷とローカル樽見鉄道

世界各地で暗い出来事が続き、荒廃した町で、疲れ果てながらも必死に生きている人々の映像が、毎日流れるこの頃です。

私は、富有柿の里 蛍の里としても知られる岐阜県本巣郡（現在本巣市）で生まれ、高校まで過ごしました。ローカル線の樽見鉄道が、里を、ガタンゴトンとのんびり音をたてながら走っていきました。（私の小さい頃は 蒸気機関車も煙を吐きながら汽笛をならして たくさんの貨車を連結し勇ましく走り、子供たちは 外にでて眺めておりました）樽見鉄道が走る美しい里山の四季で過ごした日々はとても心休まるもので、その景色をいまでも鮮明に覚えています。



春：まだ伊吹おろしを感じ寒い日が続く中 あぜ道や線路の堤防には つくしが顔を出し始め 春の訪れを感じます。

4月になり 道路沿いや川沿いの桜並木が美しくなり その桜の見ごろがおわると 薄墨桜が咲きます。とても多くのお客さんをのせた樽見鉄道が何往復もします。



田は いつのまにか レンゲ畑になり レンゲの花の絨毯の上を蝶やハチが飛び交います。

GWのころから レンゲ畑が水田になり 周りの山は新緑で美しくなり 田植えが始まります。水田の中に 小さな緑の稲の苗がきれいに並び 水鏡になり景色を楽しめます。

6月 たくさんの蛍が優しい小さな光を点滅しながら 小川を飛び交います。（幼少のころは蛍の光で本が読めるほどでした）

夏：朝夕は涼しいですが とても暑いです。強い日差しの中 セミがうるさいほど鳴き 樹木は生い茂り 水田の稲も緑の絨毯のようになり 風がふくと さわさわと心地よく揺れます。夜空には 数えきれない星が輝き 天の川も見ることがあります。

秋：虫の声とともに 緑だった稲が黄金色になります。稲刈りも終わると 冷たい北風が吹き 富有柿の里になります。オレンジ色の熟した富有柿があちこちで実り 霜がおりると ぐっと甘くなります。

冬：柿の葉も落ち葉となり、家の軒には自家製の干し柿がつるされ 自家製の漬物のために大根も干されます。伊吹おろしも吹き、時々雪が降り 真っ白の銀世界になることもあります。じっと 春の訪れを待ちます。

またいつか、大好きなふるさとの景色を眺めてのんびりと過ごしたいと思います。そして、全世界の人が、そんな日々を送れるよう祈って過ごすばかりです。

（『だより』2024年2月 第671号より抜粋）



DD51842 牽引 DL ぐんま

三鷹市医師会 中村正直

都医 HP・E メール

■ ホームページアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>

■ Eメールアドレス

jimu@tokyo.med.or.jp

無声拝聴

流れ

以前もこのコーナーで時間の流れの雑談をさせていただきました。時の流れの早いことに、なんとなく置いていかれていく思いがますます強くなってきております。2019年のCOVID-19から早5年が過ぎ、令和5年から新型コロナウイルスも5類感染症になったことで、コロナも喉元過ぎれば熱さを忘れるように、その怖さも感染予防の原点もやや忘れられているのではないかと、と感染症専門医としては心配にもなっております。

コロナ禍の頃から、人流という表現が都知事や首相から発せられ、携帯電話のデータを用いた人流調査などから、主要駅周辺での人出などが感知されるということを知りました。人の流れということの漢語表現であるとかだと、まあそんなのかと思うことにはしましたが、未だに

私自身の耳というか脳には馴染まない気がします。ただ、物流に対して人流だと人に教わって、なんとなく馴染みになりつつもあります。

2025年の新年会では、団塊の世代が後期高齢者になる年という話題からご挨拶される方々をお見受けし、21世紀になったところから、既に話題となりかけていた2025年問題のその当該年をまさに迎えて、その時はまだまだ遠い未来と想っていた2025年に生きている流れを不思議に感じております。年の初めには予想もしなかったものが流行って、その年の瀬を迎えることが多いですが、今年はどうな流れになるのでしょうか。普段から流れに遅れがちな小職としては、ともかく時流についていかなければと思

い新たであります。

(菊池 嘉)

都医からのお知らせ

INFORMATION

第468回 国際治療談話会 例会

「疫学と医療：科学の力で未来を創る」

問合先

(公財)日本国際医学協会 事務局 東京都世田谷区上馬1-11-9 3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <https://www.imsj.or.jp/>

日時▶3月27日(木) 19時～21時
形式▶ハイブリッド講演(現地：紀尾井フォーラム／Zoom配信)
開会挨拶・座長▶山崎 力((公財)日本国際医学協会 理事)
【第1部】感想▶「医療×スタートアップ：ベンチャーキャピタルが見る未来」木塚健太(グローバル・ブレイン General Partner) 【第2部】講演I「科学的根拠に基づく健康寿命延伸に向けて：疫学研究の役割」津金昌一郎(国際医療福祉大学大学院 教授) 講演II「医療経済評価と診療ガイドライン」池田俊也(国際医療福祉大学医学部 教授)
閉会挨拶▶石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)
申込方法▶3月24日(月)までに、右記2次元コードまたは協会ホームページより事前登録をお願いいたします。
参加・視聴▶無料 取得単位▶日医生涯教育制度1単位(CC：11、15)

東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム

切り拓く次世代医療 未来への処方箋

—AIを使い 新たな医療DXへ 課題と施策の方向は?—

問合先

東京慈恵会医科大学附属病院 東京都港区西新橋3-19-18
患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL: 03-5400-1202(直通) FAX: 03-5401-1879

日時▶3月13日(木) 講演会19時～ 懇親会20時10分～
会場▶東京慈恵会医科大学 講演会(1号館講堂(3階)) 懇親会(2号館講堂)
講演①「AIに簡単な仕事を代替させたい 一技術と制度の現在地」
竹下康平(東京慈恵会医科大学 総合医学研究センター 先端医療情報技術研究部)
講演②「消化器内視鏡領域におけるAIの社会実装 一現状と課題」
炭山和毅(東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部 診療部長)
講演③「少子高齢社会における医療DXと社会保障制度」
浅沼一成(国立保健医療科学院 次長)
申込方法▶右記2次元コードよりお申し込みください。
取得単位▶日医生涯教育制度1単位(CC：12)予定

感染症予報は可能か

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

COVID-19パンデミック後、さまざまな感染症が従来の流行の季節や流行規模から外れ複雑な流行状況を呈している。ここ数年の流行状況について、その要因を感染症対策の3原則を考慮しながら解析すると、一見複雑に見える感染症の発生にもある程度の法則が導き出せる。

感染症対策の3原則とは①病原体の排除(消毒・殺菌) ②感染経路の遮断 ③宿主の抵抗力の向上である。①②に関しては、手洗い、マスク、通風換気、3密を避けるなどの感染症対策の規制と緩和が大きく関与する。③は栄養、睡眠が基本であるが、感染症の罹患歴、ワクチン接種率の2因子が強く関与する。また複数のウイルス感染が同時におきる場合には、干渉作用も流行に影響を及ぼしていると考えられる。またマイコプラズマのマクロライド耐性変異の存在など、治療抵抗性が影響する場合もある。

小児の感染症流行状況は、COVID-19パンデミック中の徹底した感染対策により感染症の免疫の貯金ができているために、いったん流行が始まると大きな流行になる傾向がある。またインバウンドの増加により、海外で流行している感染症についても考慮しなければならない。コロナ禍以降の約2年間で小児ではRS、ヘルパンギーナ、アデノ(咽頭結膜熱)、インフルエンザB型、手足口病、マイコプラズマ、伝染性紅斑の順に季節感なく流行の波が訪れた。

これらの背景を考慮しながら流行要因を分析することで、感染症の流行予想がある程度可能ではないかと考える。特定の感染症の大きな流行により、検査キットや薬剤の不足が問題になる現在、中長期の感染症予報の必要性が高まっている。

(文責：時田章史)

2025年度 慈恵医大月例セミナー

(日本医師会生涯教育講座)

問合先

東京慈恵会医科大学生涯学習センターまたは慈恵医師会
TEL: 03-3433-1111(大代表)(内戦2634・2636)

会場▶東京慈恵会医科大学附属病院 中央棟会議室(8階)
時間▶16時～18時 ※一部変更する場合があります
開催日・内容▶第269回 4月12日(土) コロナパンデミックを振り返る「COVID-19流行の推移」中澤 靖(感染対策部)
「COVID-19の感染経路と院内感染対策」美島路恵(感染対策部 看護師)
「COVID-19の治療薬とワクチン」篠崎陽一(感染対策部 薬剤師)
「本学として次のパンデミックにこの経験をどう生かすか」中澤 靖(感染対策部)

第270回 6月14日(土)
「日常診療に役立つ下腿浮腫の診断と治療」関 正康(総合診療部) 16時～17時
「リンパ管吻合について」西村礼司(形成外科) 17時～17時30分
「深部静脈血栓症およびそれに伴う肺血栓栓塞症」吉田 純(循環器内科) 17時30分～18時

第271回 11月8日(土)
「いま話題の夜間頻尿、その病態と治療について」古田 昭(泌尿器科) 16時～17時
「加齢性難聴～最近の知見と対策～」櫻井結華(耳鼻咽喉・頭頸部外科) 17時～18時

医師国保からのお知らせ

医師国保では組合員の健康保持増進のためのさまざまな保健事業を行っています。

- 特定健診・特定保健指導の実施(従業員や家族の自家健診が可能です)
- 人間ドック等健診費用の助成
- 乳房エコー検診費用の助成
- 脳血管健康診断(脳ドック)費用の助成
- 保養施設・レジャー施設等の利用に際しての助成や優待

詳しい内容、申請方法等は当組合ホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6431 (総務課)

地区医師会長からの一言 サステナブルな医師会の 構築を目指して

武蔵野市医師会長 中嶋 伸



武蔵野市医師会は北多摩医師会から独立し、昭和42年4月1日に社団法人武蔵野市医師会として誕生いたしました。平成25年4月1日に公益法人制度改革に基づき一般社団法人武蔵野市医師会に移行し、平成29年には創立50周年を迎えることができました。「全国住みよさランキング」で常に上位をキープする武蔵野市を基盤に、令和6年12月時点で177名のA会員による診療所と、武蔵野赤十字病院をはじめとした市内6病院の勤務医からなるB会員150名の、合計327名の医師会員で構成されています。

当医師会は、未曾有の少子高齢多死社会を迎える我が国において地域社会への貢献を第一の使命とし、15の事業部が多岐にわたる事業を展開しています。活動方針の柱となるのは、かかりつけ医機能として今後より一層の存在感を高める3つの医療、すなわち在宅医療・災害医療・終末期医療であり、これらの推進により地域医療体制の拡充を図ります。在宅医療においては、介護連携を中心とした地域包括ケアシステムの構築を推進します。防災については「災害に強いまちづくり」という市民ニーズに応え、新たなパンデミックにも対応できる災害医療体制を整備します。在宅看取り需要の増大を背景にターミナルステージでの医療の在り方が問題となっている終末期医療では、さまざまな取り組みを通じてACPの普及啓発を進めます。

引き続きポストコロナを見据え、医師会事業を更に活性化していく必要がありますが、医師会として持続可能な組織体制を構築していくことも重要な課題であると考えています。本稿では、当医師会が取り組んでいる最優先課題について紹介させていただきます。

①吉祥寺地区病床数確保

今年武蔵野市では、吉祥寺地区唯一の二次救急指定病院であり、年間2,000件以上の救急応需と500件を超える手術実績を有する吉祥寺南病院の令和6年9月末での突然の診療休止（閉院）という激震が走りました。経営母体である啓人会からは、耐震性や電気設備等の建物の老朽化がその理由として報告されました。これに対応すべく、医師会は直ちに休日診療体制を再構築し、災害時医療体制の再編成にも取り組

んでいます。他にも病院の事業継承の問題等、解決しなければならない課題は山積しています。吉祥寺地区ではこの10年間で既に3つの病院が閉院しており、これ以上病床数を失うわけにはいきません。市も緊急庁内会議を設置するとともに吉祥寺地域医療調整担当課を新設し、吉祥寺地区の地域医療を守るために全力で臨んでいます。医師会としても新たな二次救急病院の招聘に全面的に協力する所存です。

②武蔵野市医師会館新築工事

昭和49年竣工で今年築50年を迎えた医師会館については、老朽化のため以前から建て替えの議論がありました。築50年の節目を契機に、主に総務会で構成される医師会館建設準備特別委員会の設置が、6月の理事会で承認されました。3社の設計事務所に設計を依頼し、2社の解体業者の見積もりを査定、更には事務局からの多種多様な要望を検討し、喧々囂々の議論の末に11月の理事会で設計事務所・解体業者・建築会社の選定が承認されました。現会館の解体作業に伴い、令和7年4月には事務局を仮オフィスに移転し、9月に新築工事を着工いたします。皆様にはしばしの間ご不便をおかけしますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

都内約640病院の多くが赤字と言われ、その背景に東京都の人件費・物価・地価が高く、全国一律の診療報酬では賄えないという事情があります。最近の建築費高騰により建て替えも困難となり、老朽化を理由に閉院する病院も増えると予測されています。少子高齢化に対応するために各自治体で進めている地域包括ケアシステムも地域の病院なしでは支えることができません。病院の経営状態が改善されない限り、どの自治体でも当市のような病院の閉院は起こり得るわけです。今後は自治体の枠組みを越えて近隣の自治体同士が連携して、地域包括ケアシステムを構築して行く必要があると考えています。最後になりますが、この度の医師会館新築工事も「サステナブルな医師会」構築の第一歩と捉えています。これからも持続可能性を常に念頭において医師会の組織体制を整えていきたいと思います。